

# 日本簿記学会ニュース

No. 62:12 / 2016

## 《部会・大会の経過報告》

第32回関東部会は、平成28年6月18日(土)に、横浜国立大学(準備委員長:原俊雄氏)にて、第32回全国大会は、平成28年8月19日(金)から21日(日)に大阪経済大学(準備委員長:本田良巳氏)にて、各々開催されました。詳しい内容は本紙部会記および全国大会記をご覧ください。

## 《大会・部会のご案内》

第33回関西部会は、平成29年5月に中部大学(準備委員長:澤村隆秀氏)にて、第33回関東部会は、平成29年6月に石巻専修大学(準備委員長:関根慎吾氏)にて、第33回全国大会は、平成29年8月に明治大学(準備委員長:田中建二氏)にて各々開催される予定です。

## 《第32回全国大会正会員出席者状況》

第32回全国大会への正会員の出席者の状況は以下の通りでした。

	全	体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	203名	161名	20名	3名	9名	10名	
比率	100.0% <sup>(注)</sup>	79.3%	9.9%	1.5%	4.4%	4.9%	

(注) 各区分の比率を小数点第1位未満で四捨五入しているため、僅少差0.1%が生じておりますが、便宜上、表示しておりません。

## 《平成28・29年度研究部会のテーマおよびメンバー》

平成28・29年度研究部会のテーマおよびメンバーが先の総会にて下記の通り承認されました。

簿記理論研究部会 テーマ:「簿記における計算構造の総合的研究」 部会長:上野清貴(中央大学)

青柳薫子(香蘭女子短期大学) 赤城論士(九州産業大学) 梅田勝利(九州共立大学) 岡部勝成(日本文理大学) 奥菌幸彦(九州産業大学) 榎部幸子(鹿児島国際大学) 佐藤俊哉(税理士) 宗田健一(鹿児島県立短期大学) 高木正史(別府大学) 高橋和幸(下関市立大学) 高橋聡(西南学院大学) 谷崎太(西南女学院大学短期大学部) 鶴見正史(愛知産業大学) 仲尾次洋子(名桜大学) 日野修造(中村学園大学) 宮地晃輔(長崎県立大学) 望月信幸(熊本県立大学) 八島雄士(和歌山大学) 矢野沙織(西日本短期大学) 椛田龍三(専修大学, オブザーバー) 木戸田力(佐賀大学, オブザーバー)

簿記教育研究部会 テーマ:「高大連携の視点から考える簿記教育」 部会長:加瀬きよ子(東京都立江東商業高等学校)

浅野進(茨城県立古河第一高等学校) 池田宏史(東京都立芝商業高等学校) 石津扶美子(佐賀県立杵島商業高等学校) 市川紀子(駿河台大学) 小野正芳(千葉経済大学) 粕谷和生(横浜市立横浜総合高等学校) 金子善行(帝京大学) 島本克彦(大和大学) 鈴木友則(群馬県立前橋商業高等学校) 竹中輝幸(全国経理教育協会) 堀口信(千葉県立千葉商業高等学校) 増子敦仁(東洋大学) 峯正哉(徳島県教育委員会) 山浦弘照(実教出版) 吉川昌彦(千葉県立鶴舞桜が丘高等学校) 吉田智也(埼玉大学) 中野貴元(エヌジェーケー, 研究協力者) 新田忠誓(一橋大学名誉教授, オブザーバー)

簿記実務研究部会 テーマ:「収益会計の現状と課題」 部会長:梅原秀継(明治大学)

小阪敬志(日本大学) 清水泰洋(神戸大学) 菅原智(関西学院大学) 中村亮介(筑波大学) 成川正晃(東北工業大学) 山田康裕(立教大学) 佐藤信彦(熊本学園大学, オブザーバー)

## 《学会誌改革と査読手続に係る内規の改正》

第31回大会会員総会において、学会誌検討委員会が設置され、1年にわたって学会誌改革について議論がなされました。当該委員会及び理事会での検討によって、査読付論文を『研究誌』（名称は『簿記研究』を予定）としてWebベースで発行（J-stageに登録）して非会員にも広く閲覧できる機会を設け、その他の研究部会報告等は『年報』（活動記録として位置付ける）に所収することが確認され、第32回大会会員総会において報告されました。新たに査読なし雑誌（名称は『簿記フォーラム』を予定）を設け、記念講演、個性が高い教育方法の紹介や新しい実務の展望などを所収することとなります。

また、査読手続に関して、査読期間が限られてしまい不十分であったことから、内規を次のように改正することとなりました。ただし、本年度の第32回全国大会・地域部会の報告については、当面の移行措置を設けます。

改正前	改正後
<p>査読手続に係る内規 平成18年8月29日制定 平成21年8月26日改正</p> <p>(中略)</p> <p>三. 査読結果の報告と掲載対象の決定</p> <p>1. 査読者は、指定された期日までに査読結果およびその判断理由を文書にて編集委員会に報告する。</p> <p>2. 編集委員会は、投稿原稿の査読結果を参考にして掲載の可否について決定する。</p>	<p>査読手続に係る内規 平成18年8月29日制定 平成21年8月26日改正 <b>平成28年8月20日改正</b></p> <p>(中略)</p> <p>三. 査読結果の報告と掲載対象の決定</p> <p>1. 査読者は、指定された期日までに査読結果およびその判断理由を文書にて編集委員会に報告する。<u>また、編集委員会は、投稿者に対して、査読者の指摘事項を伝達し原稿の修正を依頼する。なお、この過程は、必要に応じて複数回設けることができる。</u></p> <p>2. 編集委員会は、投稿原稿の査読結果を参考にして掲載の可否について決定する。<u>ただし、投稿時期および査読期間の関係から、投稿原稿の学会誌掲載年度が、本学会における報告年度と異なることも可とする。</u></p>

## 《選挙管理委員会》

第32回全国大会総会において、第33回全国大会時に行われる役員選挙に向けて、選挙管理委員会が設置されることが報告されました。委員会のメンバーは以下の通りです。

選挙管理委員：泉宏之（横浜国立大学）、岩崎勇（九州大学）、北村信彦（公認会計士）、  
中島利郎（全国経理教育協会・中央情報経理専門学校）、原俊雄（横浜国立大学）  
幹事：小澤康裕（立教大学）、中村亮介（筑波大学）、兵頭和花子（兵庫県立大学）、  
和田博志（近畿大学）、渡邊貴士（亜細亜大学短期大学部）

なお、選挙管理委員会において、委員長には北村信彦氏が選任されました。

また、会費納入期日までに会費の納入がなく、2カ年にわたり会費を滞納した場合には選挙権が与えられませんので、ご注意ください。

## 《平成 28 年度日本簿記学会学会賞及び奨励賞について》

平成 28 年度の日本簿記学会学会賞及び奨励賞は、学会賞審査委員会（委員長：高須教夫，委員：泉宏之，佐藤信彦，藤井禎晃，峯正哉）における選考とその結果報告を受けて、理事会において次のように決定した。

学会賞：工藤栄一郎著『会計記録の研究』（中央経済社，平成 27 年 5 月発行）

奨励賞：中野貴元稿「明治期殖産興業政策の時代と簿記教育—森下・森島（1878）『簿記學階梯』の分析を通じて—」（第 31 回全国大会・統一論題報告）

中村亮介稿「ポイントプログラムの簿記処理と新たな収益認識基準」（第 31 回関東部会・統一論題報告）

平野智久稿「電力会社の貸借対照表における仮勘定の性格」（第 31 回全国大会・自由論題報告）

（『日本簿記学会年報』第 31 号）に掲載済み）

そこで以下においては、学会賞及び奨励賞についての審査過程とその授賞理由について説明する。

学会賞については、1 点の推薦があり、この作品について、8 月 19 日開催の審査委員会において、①新規性、②信頼性、③有用性、④適合性という 4 つの評価基準に基づき審査を行い、上記の 1 点を授賞作品として選考した。

そして、その授賞理由として、本書においては、先行研究の成果を「編集」しながら、会計記録の生成と展開に関する「物語」を紡ぎ出すことにより、あらたな意匠による会計学研究を「創発」という問題意識のもと、簿記の有する教育的側面の解明に焦点をあて、簿記の社会への普及過程について検討を行うことで、その社会的普及過程の解明に成功していることを、挙げる事ができる。

また、奨励賞については、6 月 18 日開催の審査

委員会において『日本簿記学会年報』掲載論文の中から予備選考（年齢等の形式基準）を行い、候補作品として 6 点を選んだ上で、8 月 19 日の審査委員会において、学会賞と同様の 4 つの評価基準に基づき審査を行い、上記の 3 点を授賞作品として選考した。

そして、その授賞理由を述べると、中野貴元論文については、これまで全面的には検討されてこなかった『簿記學階梯』を取り上げ、詳細に検討することにより、当該簿記書の特徴を明らかにすると共に、当時の先行書が外国文献の翻訳であったのに対して、当該簿記書はわが国独自の教科書として先駆的な書であったという解釈を示していることを、挙げる事ができる。

中村亮介論文については、新しいビジネスモデルであるポイントプログラムを取り上げ、実際にわが国でポイントプログラムを運営している企業に対するヒアリング調査に基づき、その簿記処理について検討すると共に、IFRS15 の導入によりポイントプログラムを運営している企業にいかなる影響が予想されるのかについて考察していることを、その授賞理由として挙げる事ができる。

平野智久論文については、原子力発電所の廃炉問題という喫緊の問題を取り上げ、電力会社の貸借対照表における「仮勘定」の有する意味を明らかにするために、「廃炉仮勘定（a）」の性格を「廃炉損失の先送り」と捉えた場合と「廃炉債権の未収」と捉えた場合についての正則的な仕訳を、また、資産除去債務に係る仕訳と比較する形で「廃炉仮勘定（b）」に係る正則的な仕訳を提示していることを、その授賞理由として挙げる事ができる。

日本簿記学会学会賞審査委員会  
委員長 高須教夫

## 《日本簿記学会学会賞審査委員会からのお願い》

学会賞審査委員会では、会員の皆様からの学会賞候補にふさわしい著書等のご推薦をお願いいたします。推薦の手続等については、学会ホームページをご確認ください。また、推薦書籍等については 5 部ご提出ください。

日本簿記学会学会賞審査委員会

## 日本簿記学会第 32 回関東部会記

横浜国立大学  
準備委員長 原 俊 雄

日本簿記学会第 32 回関東部会は、2016 年 6 月 18 日（土）に、横浜国立大学にて開催された。本学ではこれまで、1994 年 10 月に「簿記一巡の手続と帳簿組織を巡る諸問題」と題する統一論題で第 10 回関東部会を、2007 年 8 月に「簿記教育を巡る諸問題」と題する統一論題で第 23 回大会を開催した。今回の関東部会では、あえて統一論題を設けず、幅広いテーマでの報告・討論を行うために、3 名の報告者による自由論題報告・討論とした。

第 1 報告は、佐々木隆志氏（一橋大学）の司会のもと、加藤美樹雄氏（関東学園大学）による「収益認識時における本人か代理人かの判断—仕訳と勘定科目を中心とした考察—」であった。IASB より 2014 年公表された IFRS 第 15 号「顧客との契約から生じる収益」および 2016 年に公表された「IFRS 第 15 号の明確化」を題材として、売上に関する税金とポイント処理の例証を用いて、「本人か代理人か」の判断による仕訳と勘定科目の考察、特に複数要素の契約による収益認識やその記帳法について検討を行った。加藤氏の報告に対しては、金子友裕氏（東洋大学）、山田康裕氏（立教大学）、吉田智也氏（埼玉大学）、そして司会の佐々木隆志氏より質問があった。

第 2 報告は、大塚成男氏（千葉大学）の司会のもと、吉田智也氏（埼玉大学）による「公会計における財務書類と複式記入」であった。わが国の公会計に、「複式簿記」をどのように導入していくのかについて、2015 年に総務省から公表された「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」を題材として、具体的な仕訳例を検討し、発生主義会計が採用されていること、現金勘定が収入・支出勘定に置き換えられていること、一部に公会計固有の処理が見られることを明らかにした。吉田氏の報告に対しては、加藤大吾氏（早稲田大学）、徳山英邦氏（帝京大学）、工藤栄一郎氏（西南学院大学）、會田一雄氏（慶應大学）氏からの質問があった。

第 3 報告は、上野清貴氏（中央大学）の司会のも

と、菱山淳氏（専修大学）による「リース取引の認識、測定、および表示の対象」であった。IASB より 2016 年に公表された IFRS 第 16 号「リース」を題材として、新リース会計基準のもとで認識・測定・表示の対象となる「使用権資産」に焦点をあて、これがどのような性質を備えた資産項目であるのか、新基準に定められる借手手の会計処理、および貸し手の会計処理との対応関係を手掛かりにして検討し、新基準では、使用権資産という「権利」を会計処理の対象としながら、リース物件という物的属性に引き付けられた内容を持つ会計処理となっていることを明らかにした。菱山氏の報告については、中野貴元氏（(株) エヌジェーケー）、田宮治雄氏（東京国際大学）、成川正晃氏（東北工業大学）、林健治氏（日本大学）、佐々木隆志氏より質問があった。

いずれの報告も、時宜を得たテーマであったこともあり、報告者とフロアの間で、活発な議論が交わされた。

自由論題報告に引き続き、泉宏之氏（横浜国立大学）の司会のもと、新田忠誓氏（一橋大学名誉教授、日本簿記学会顧問）により、「簿記の諸目的と簿記教育のあり方—全経簿記能力検定試験改定に寄せて—」と題する記念講演が行われた。記念講演も、現在進行中の全国経理教育協会の簿記能力検定試験の改定にかかわらせて、簿記の目的である日記・管理・決算という 3 つの視点から、従来の簿記処理の問題点の指摘、新たな収益認識基準への簿記上の対応の提案、全経簿記の改定の方向性、最後にまとめとして、長きにわたる大学での簿記教育の回想を語っていただいた。

その後の懇親会では、会長の中野常男氏のご挨拶、大藪俊哉氏（横浜国立大学名誉教授、日本簿記学会顧問）の乾杯のご発声の後、会員間の懇親を深めることができた。

最後に、第 32 回関東部会の開催にあたり、報告者、司会者の先生方、多大なるご支援とご協力を賜りました会員及び関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。と、

## 日本簿記学会第 32 回全国大会記

大阪経済大学  
準備委員長 本田良巳

日本簿記学会第 32 回全国大会は、8 月 19 日（金）から 21 日（日）までの 3 日間にわたり大阪経済大学大隅キャンパスで開催されました。本大会では、統一論題を「複式簿記の適用領域の拡大—その機能と課題—」と設定しました。

今日、企業活動の国際化はさらに進展し、取引概念も拡大化・複雑化しております。また、会社規模別の簿記が要請され、中小企業の簿記も論じられております。さらに、農業や林業の簿記、非営利組織や公企業の簿記、あるいは業種別の簿記等、さまざまな領域で複式簿記は要請され、複式簿記の新たな課題も生まれています。このような問題意識のもと、「複式簿記の適用領域の拡大—その機能と課題—」という統一論題を設定しました。

大会第 1 日の 8 月 19 日には理事会や学会賞審査委員会等が開催されました。

第 2 日の 20 日の午前には、高校簿記教育懇談会が開催され、高等学校教員を中心に多くの参加者を集めました。午後からは、会員総会、学会賞受賞講演の後、統一論題報告が行われました。

司会の高須教夫氏（兵庫県立大学）による趣旨説明の後、①戸田龍介氏（神奈川大学）による「日本における農業簿記の研究—そこから得られる簿記学への知見—」、②西田尚史氏（未来税務会計事務所）による「農業分野における複式簿記活用等について～収穫基準と棚卸評価について～」が、休憩を挟んで、③金子良太氏（國學院大学）による「非営利組織会計における複式簿記の適用の拡大と課題—諸外国の事例も踏まえて—」、④宮本幸平氏（神戸学院大学）による「政府会計複式簿記の適用領域の拡大—その機能と現行基準の課題—」という 4 つの報告が行われました。明らかなように、とくに農業、公企業の領域への複式簿記の適用、その課題等の報告が行われました。

引き続き、橋本武久氏（京都産業大学）の司会の下、①簿記教育研究部会報告「簿記の学びの伝統と革新」部会長工藤栄一郎氏（西南学院大学）、②簿記実務

研究部会「中小企業における業種別工業簿記・原価計算実務に関する研究」部会長飛田努氏（福岡大学）、③簿記理論研究部会「帳簿組織の研究」部会長原俊雄氏（横浜国立大学）の 3 つの研究部会の最終報告が行われました。その後、暫時休憩の後、D 館 80 周年記念ホールにて大阪の夜景を眼下にしながら懇親会が開催されました。

第 3 日の 21 日には三会場で、合計 12 組による自由論題報告が行われました。第 1 会場では、齊野純子氏（関西大学）の司会の下、加藤大吾氏（早稲田大学）の報告と山根陽一氏（大阪経済法科大学）の報告が、また、菅原智氏（関西学院大学）の司会の下、川崎定昭氏（川崎公認会計士事務所）の報告と中村恒彦氏（桃山学院大学）の報告が行われました。第 2 会場では、辻川尚起氏（兵庫県立大学）の司会の下、國廣好行氏（国広税務会計事務所）の報告と西村昭一郎氏（龍谷大学大学院）の報告が、また、石原裕也氏（専修大学）の司会の下、桑原正行氏（駒澤大学）の報告と竹島貞治氏（金沢大学）の報告が行われました。第 3 会場では、杉山晶子氏（東洋大学）の司会の下、宮武記章氏（大阪経済大学）・吉本圭一郎氏（日本文理大学）の報告と澤井康毅氏（帝京大学）の報告が、また、安井一浩氏（神戸学院大学）の司会の下、浅野千鶴氏（明治大学）の報告と鳥飼裕一氏（東洋大学）の報告が行われました。

上記の自由論題報告の後、休憩を挟んで、統一論題討論が行われ、座長の高須氏と報告者の戸田・西田・金子・宮本の 4 氏との間で活発な討論が行われました。

非常に厳しい日程の中、すべてのプログラムをほぼ時間通りに進めることができました。時間的制約の中で報告者・司会者として進行にご協力いただきました関係の諸先生方に厚く御礼申し上げます。また、ご多忙にもかかわらず、猛暑の続く大阪の地まで足をお運びいただいた会員の先生方に心より感謝の意を申し上げ、大会報告とさせていただきます。

## 《理事の辞任及び選任》

平成 28 年 4 月 1 日付で、日本簿記学会会長兼理事である中野常男氏の所属が神戸大学から国士舘大学に変更され、これに伴い、日本簿記学会会則第 16 条および日本簿記学会役員選挙内規に基づき、同氏は同年 3 月 31 日付で関西側理事を辞任され、新たに理事として池田公司氏（甲南大学）が選出されました。

平成 27 年 8 月 28 日以降、平成 28 年 8 月 18 日までに申し込まれ、8 月 19 日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

### 入 会 会 員 名 簿

（名簿の番号は会員番号）

番号	氏名	所属機関	番号	氏名	所属機関
2016-001	高橋 秀幸	北海道武蔵女子短期大学	2016-014	永田 清行	税 理 士
2016-002	萩 桂子	広島市立広島商業高等学校	2016-015	中村 将人	中京大学総合政策学部
2016-003	岩本 淳悟	兵庫県立小野高等学校	2016-016	坂本 龍一	坂本会計事務所
2016-004	岡部 勝成	日本文理大学	2016-017	国見 健介	東京 CPA 会計学院
2016-005	奥蘭 幸彦	九州産業大学経営学部	2016-018	荒川 晶夫	会計検査院
2016-006	笠岡 恵理子	関西学院大学商学部	2016-019	奥野 徳子	東京リーガルマインド梅田支社
2016-007	坂巻 仁志	東 洋 大 学	2016-020	桑澤 佳子	鯉 沢 税 務 署
2016-008	張 櫻 馨	横 浜 市 立 大 学	2016-021	安部 秀俊	大原大学院大学
2016-009	西田 尚史	未来税務会計事務所	2016-022	坂口 勝幸	札幌学院大学経営学部
2016-010	中川 靖隆	兵庫県立長田商業高等学校	2016-023	多和田 芳郎	宮川孝広税理士事務所
2016-012	伊藤 龍峰	西南学院大学商学部			
2016-013	海住 信行	高 田 短 期 大 学	2016-011	内 田 綾	中央大学大学院商学研究科
				〈準会員〉	

## 大会・部会の風景

### 関東部会



全国大会



### 編集後記

来年は、学会のさらなる発展にご尽力いただく役員の方を選ばず役員選挙がごさいます。ぜひ全国大会にお越しいただき投票をお願い申し上げます。

（小澤・中村・兵頭・和田・渡邊）



発行所  
編集兼  
発行人

日本簿記学会事務局

事務連絡所

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15  
株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp

URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>